

新たな価値を生み出すまちづくりを展開中！

古賀市長

田辺かずき 市政報告

オール古賀を実践！
まちづくり推進中！

県市通算第62号
(市政第8号)

2022年3月発行

<田辺かずき事務所>
・challenge@tanabe-kazuki.jp
・http://www.tanabe-kazuki.jp/
・https://ameblo.jp/tanabe-kazuki/

Facebook、Twitter、Instagramも

【裏面もあります！】
■新たな工業団地を形成
■多様性を尊重する社会

薬王寺温泉オフィスが始動 古賀駅周辺開発、企業誘致も前進

古賀市は社会の価値観の変化を捉え、まちづくりを進めています。持続可能なまちを次世代につないでいくため、長年の懸案だった中心市街地の活性化に乗り出しました。

まず、人口減少社会にある今、雇用の創出、移住の促進、交流人口の拡大に挑戦する最後のチャンス。国や県と連携し、その実現に全力を尽くしていきます。

市内外の多様な人材の経験や知見が交差するプロジェクトを展開し、さらなる魅力向上も図っています。あわせて、積極的に土地利用を転換し、新たな企業誘致につなげてい

JR古賀駅東口周辺地区整備基本計画を昨年12月に策定しました。私がまちづくりの「1丁目1番地」に掲げる古賀駅周辺の活性化。公約である中心市街地のにぎわい創出に向けて、道路や駅前広場、公園などの整備方針を取りまとめたものです。2022年度中の都市計画決定をめざし、基本設計も進めます。皆さまのご理解とご協力をいただきながら、さらに推進していきます。

古賀駅西口エリアの本質的再生も具体的に進んでいます。昨年は商店街に新たな交流拠点のシェアスタジオが誕生し、古賀竟成館高校の生徒さんたちによる空き店舗を活用したイベントも開催。今年、これ



古賀駅東口周辺地区の整備では、子育てや学び、憩い、交流の空間形成をめざす

古賀駅西口エリアの本質的再生も具体的に進んでいます。昨年は商店街に新たな交流拠点のシェアスタジオが誕生し、古賀竟成館高校の生徒さんたちによる空き店舗を活用したイベントも開催。今年、これ



古賀竟成館高校の生徒さんたちによる空き店舗活用イベント



市民の皆さんと一緒にペンキを塗り、「koga ballroom」が誕生

まで地元の皆さまと共に作り上げてきたビジョンに基づき、新たな取り組みもスタートします。

薬王寺温泉の旧旅館をサテライトオフィスやコワーキングスペースなど

にリノベーションした新ビジネス拠点「快生館」が昨年10月に開業しました。社会の価値観の変容を捉え、テレワークなどの新しい働き方を推進し、起業や創業、事業者交流や連携、移住、定住、滞在の促進を図ります。運営は福岡市西区で先行して同様の事業に取り組んできた「SALTY」さま。そして、サテライト進出第1号は徳島県美波町に本社のある「あわえ」さま。地方自治体と企業をつなぐ事業を展開し、多くの実績を上げています。続々と入居の動きがあり、九州をはじめ各地で地域活性化に取り組む多くの皆さまともつながり、多様な人材の「クロスオーバー」による「共創」が始まっています。国や県の後押しもあり、メディアからも注目されています。

古賀グリーンパークとその周辺は健康やスポーツに加え、観光・物産・情報発信の拠点としての強化策も推進。昨年3月にはピエトロさまの新工場建設が決まり、同7月には西部ガスさまと協定を締結して新たな官民連携も。千鳥駅東口ではロータリー整備に着手し



快生館の交流スペースは、企業の合宿や学習会、多様なイベントでも活用ができる

ます。さらに、企業立地向けた新たな工業団地の形成も始まりました。裏面で詳報しています。

こちらの二次元バーコードからもご覧いただけます



紙ベースの報告書ではまちづくりのすべてを伝えることはできません。私のFacebookやTwitter、Instagram、LINEといったSNS、ブログ、古賀市HPなどでは、連日、様々な市政の動きを発信していますので、これらをフォローし、チェックしていただくと幸いです。こちらの二次元バーコードからもご覧いただけます。

工業団地を20年ぶりに拡張へ 新たな物流団地も形成

今在家地区と大内田地区を開発へ

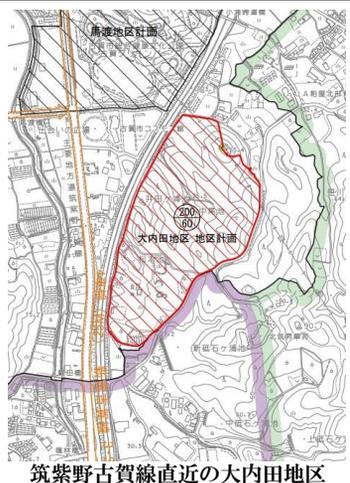
古賀市の「モノづくりの力」を強化するため、工業団地を大幅に拡張します。実に20年ぶり。国道3号線沿いで九州自動車道・古賀IC入口直近の「今在家地区」（約21・1ha）を市街化区域に編入し、用途地域と地区計画を設定しました。

筑紫野古賀線直近の「大内田地区」（約18・9ha）の開発に向けても地区計画を設定する手続きを開始。都市計画審議会などを経て6月の決定告示をめざします。福岡都市圏を中心に物流施設の需要が根強く、福岡県経済にとっても大きな意義を持つと考えています。

産業力の強化は、チルドレンファーストとともに私の最も重要な公約。古賀市は製造業の立地が100社を超え、製造品出荷額（食料品）は県内60市町村で福岡市に次ぐ2位の力を持っています。引き続き、地元の吉田健一朝県議と連携し、交通結節点の「地の利」を生かした適正な土地利用と企業誘致の推進を図っていきます。



工業団地の隣、国道3号線沿いの今在家地区



筑紫野古賀線直近の大内田地区

ファミリーシップ自治体 サミットを初開催！

皆さんのパートナーシップ・ファミリーシップ宣誓制度を導入している全国11市区町でオンラインサミットを昨年12月に開催しました。兵庫県明石市の泉房穂市長の呼び掛けで、古賀市のほか、徳島市、東京都足立区、愛知県豊田市、埼玉県入間市、徳島県三好市、岡山県総社市の各市区長が意見を交換。多くの新聞やテレビで報じられました。

私からは、個人の尊重と幸福追求の観点から誰もが生きやすい地域社会をつくるために取り組んでいること、パートナーシップ制度については福岡北九州両市と都市間連携を図っており、ファミリーシップ制度でも全国の導入市区町で都市間連携を進めたいこと、市役所の各窓口でレインボーフラッグを表示して安心につなげていることなどを申し上げました。先駆的な制度のため、こうした形で首長がそれぞれの現状と課題を共有することはとても重要。全国に広がっていきます！



古賀市として2050年までに二酸化炭素排出実質ゼロをめざす「ゼロカーボンシティ」を宣言しました。昨年3月に早期実現の方向性を明らかにしたうえで、11月の市議会本会議で宣言。今後、2022年度から改定作業を予定している第3次環境基本計画などにも内容を反映させ、実効性を高めていきます。みんなで地球環境を意識し、具体的な行動につなげていきましょう。

「ゼロカーボンシティ」宣言



大根川の旧河道が親水空間に

市役所の裏を流れる大根川の「旧河道」が谷山川に合流するまでのエリアを親水空間として整備しました。私が県議だった時から県の事業を活用。九州大学のご協力もいただき、市民の皆さんが参加するワークショップ形式で、人と自然が共存し、みんなで憩える水辺づくりと一緒に考えながら進めてきました。昨夏完成。都市近郊で自然に恵まれていることが古賀市の魅力。これからもこうした環境を生かし、まちづくりを進めていきます。



「ゼロカーボンシティ」を市議会本会議で宣言＝2021年11月30日

古賀市長選は11月27日投開票

私の1期目の任期満了に伴う古賀市長選は今年11月20日告示、同27日投開票になりました。光陰矢の如し。38歳で市長に就任し、もう41歳になりました。公約に掲げた多くの政策について達成または着手し、まちづくりを進められています。この間の市民の皆さん、古賀市に関わっている皆さんのご理解とご協力に感謝いたします。12月22日が1期目の任期満了日。しっかりと務めを果たしてまいります。

新型コロナウイルス 3回目接種を推進

新型コロナウイルスの3回目接種について、高齢者だけでなく、18歳以上の全ての皆さんが2回目接種から「6カ月」経過後に接種できるよう、接種券を順次送付しています。順調に進んでおり、医療関係者の皆さんに感謝を申し上げます。引き続き、着実に推進していきます。

田辺一城 (たなべかずき)

1980(昭和55)年5月16日生まれ/暁の星幼稚園、花鶴小学校、古賀中学校、福岡高校、慶應義塾大学法学部法律学科卒/2003年、毎日新聞に入社し、福井支局、大阪本社社会部/2011年から福岡県議会議員を2期務め、2018年12月に古賀市長に就任/妻と中学3年の長男、小学5年の長女/好きな音楽家はサザンオールスターズと椎名林檎、作家は夏目漱石と平野啓一郎、漫画家は手塚治虫